

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

## ⑫ 公開特許公報(A) 昭61-210018

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)9月18日

A 61 K 7/02

7306-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 メーキャップ化粧料

⑯ 特 願 昭60-51947

⑰ 出 願 昭60(1985)3月15日

⑱ 発 明 者 畑 尾 正 人 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内  
 ⑱ 発 明 者 高 田 晋 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内  
 ⑱ 発 明 者 小 林 進 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内  
 ⑲ 出 願 人 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

メーキャップ化粧料

## 2. 特許請求の範囲

(1) 二酸化チタン、亜鉛華、硫酸バリウム、金属石鹸、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、シリカ、アルミナの群から選ばれる1種または2種以上を20重量%~70重量%、かつ、25℃における粘度が100cps~1,000,000cpsである油分を0.1重量%~20重量%配合することを特徴とするメーキャップ化粧料。

## 3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はメーキャップ化粧料、さらに詳しくはファンデーション、アイシャドー、頬紅等の粉末プレス状メーキャップ化粧料であり系中に二酸化チタン、亜鉛華、硫酸バリウム、金属石鹸、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、シリカ、アルミナの群から選ばれる1種または2種以上、かつ、25℃における粘度が100cps~1,000,000cpsである

油分を配合することを特徴とし、肌への密着感、一体感があり粉っぽくない化粧料を提供するものである。

〔従来の技術〕

従来のメーキャップ化粧料は、タルク、マイカ等の体質原料、酸化鉄等の着色原料、油分、活性剤、香料、酸化防止剤、防腐防黴剤等よりなるが、その仕上がりについては肌と一体となった仕上がり、あるいは密着感のある粉っぽくない仕上がりをもとめられてきた。しかし、これら従来のメーキャップ化粧料については、粉末が皮膚上に付着した状態であることにより肌への密着感、一体感を得ることが困難であり、また仕上がりも粉っぽいものであった。

〔発明が解決しようとする問題点〕

本発明者らは上記事情にかんがみ、肌への密着感、一体感のあるメーキャップ化粧料を得るべく鋭意研究をかさねた結果、特定の粉末および特定の油分をそれぞれ特定量の化粧料基剤に配合する

ことによりこの問題を解決しうることを見出し、本発明を完成するに至った。

〔問題点を解決するための手段〕

すなわち、本発明は二酸化チタン、亜鉛華、炭酸バリウム、金属石鹸、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、シリカ、アルミナの群から選ばれた1種または2種以上を20重量%〜70重量%、かつ、25℃における粘度が100cps〜1,000,000cpsである油分を0.1重量%〜20重量%配合することを特徴とする化粧品である。

本発明に用いられる二酸化チタン、亜鉛華、炭酸バリウム、金属石鹸、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、シリカ、アルミナは一種または二種以上が適宜選択され配合される。配合量は20重量%〜70重量%であり、好ましくは25重量%〜60重量%である。20重量%未満では、密着感、一体感が充分でなく、70重量%以上ではケーキング性、あるいは使用感が重くなるためのぞましくない。

本発明に用いられる油分は25℃における粘度が100cps〜1,000,000cps、好ましくは1000cps〜500,

000cpsであれば、適法はどんなものであってもいいが、例えばオレフィン重合体、炭化水素、高級分枝アルコール、高級分枝脂肪酸、高級分枝アルコールの一あるいは多価基酸エステル、高級分枝脂肪酸の一あるいは多価アルコールエステル、シリコン油および天然油分であり、具体的には、ポリブテン、ポリイソブレン、ワセリン、イソステアリルアルコール、イソステアリン酸、イソステアリルイソステアレート、イソステアリルアルコールリンゴ酸エステル、グリセリントリイソステアレート、トリメチロールプロパントリイソステアレート、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルヒドロジェンポリシロキサン、ラノリン、ヒマシ油等であり、このうちの一種または二種以上が、適宜選択され配合される。配合量は0.1重量%〜20重量%であり、好ましくは1.0重量%〜15重量%である。0.1重量%以下では密着感、一体感が充分でなく、20重量%以上ではケーキング性、あるいは使用感が重くなるため望ましくない。本発明の化粧品には上

記した必須成分に加えて、必要により香料、油分、水、界面活性剤、保護剤、低級アルコール、増粘剤、香料、酸化防止剤、防腐防黴剤、体質原料、着色原料等、通常化粧品に用いられる成分を配合することができる。

〔実施例〕

つぎに実施例および比較例をあげて、本発明を具体的に明らかにする。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。

・実施例1 固型ファンデーション

(1)二酸化チタン	10.0
(2)亜鉛華	15.0
(3)マイカ	40.0
(4)タルク	15.48
(5)酸化鉄	4.5
(6)炭酸パラフィン	13.0
(7)ソルビタンセスキオレート	1.0
(8)エチルパラベン	0.5

(10)ビタミンE	0.02
(11)香料	0.5

(1)〜(5)をヘンシェルミキサーにて混合し、他方(6)〜(10)を80℃で加熱溶解して上記(1)〜(5)に吹きつけてさらにヘンシェルミキサーにて混合する。ついでアトマイザーにより粉砕し、噴処理して圧縮成型により中皿中に成型してプレス状ファンデーションをえた。

・比較例1

(1)二酸化チタン	10.0
(2)亜鉛華	15.0
(3)マイカ	40.0
(4)タルク	15.48
(5)酸化鉄	4.5
(6)炭酸パラフィン	13.0
(7)ソルビタンセスキオレート	1.0
(8)エチルパラベン	0.5
(9)ビタミンE	0.02
(10)香料	0.5

特開昭61-210018(3)

実施例1と同様にして比較例1を得た。

## ・比較例2

(1) 二酸化チタン	10.0
(2) マイカ	40.0
(3) タルク	30.48
(4) 酸化鉄	4.5
(5) 脱臭ポリブテン(300,000cps/25℃)	3.0
(6) 流動パラフィン	10.0
(7) ソルビタンセスキオレート	1.0
(8) エチルバラベン	0.5
(9) ビタミンE	0.02
(10) 香料	0.5

実施例1と同様にして比較例2を得た。

## ・効果・

実施例1と比較例1、2とを専門パネル20名により官能評価したところ表1の様な結果となった。

表1

使用感	実施例1	比較例1	比較例2
肌への密着感	○	×	×
肌へのつき	○	△	△
のび	○	○	○
化粧もち	○	△	○

なお、表中の記号は、

○……15～20名が使用性良好と判定、

○……10～14名が使用性良好と判定、

△……5～9名が使用性良好と判定、

×……0～4名が使用性良好と判定

したことを示す。

表1より明らかな様に本発明の固型ファンデーションは肌への密着感、肌へのつき、のび、化粧もちの全ての点において比較例よりも優れている。

## ・実施例2 両用ファンデーション

(1) 処理マイカ*	40.0
(2) 処理タルク*	5.48
(3) 処理酸化鉄*	4.5
(4) 処理二酸化チタン*	15.0
(5) 処理硫酸バリウム*	15.0
(6) カルシウムステアレート	3.0
(7) 精製ツノリン	10.0
(8) ミリスチン酸イソプロピル	5.0
(9) ソルビタントリオレート	1.0
(10) エチルバラベン	0.5
(11) ビタミンE	0.02
(12) 香料	0.5

\*実施例2中の処理はメチルヒドロジェンポリシロキサン4%処理である。

実施例1に準じて製造し、両用ファンデーションを得た。本両用ファンデーションは実施例1と同様に密着性に優れたものであった。

## ・実施例3 アイシャドー

(1) 炭酸カルシウム	25.0
(2) アルミナ	30.0
(3) 炭酸マグネシウム	10.0
(4) マイカ	13.0
(5) タルク	4.98
(6) 酸化鉄	1.5
(7) 群青	7.5
(8) ジメチルポリシロキサン (500,000cps/25℃)	0.5
(9) ジメチルポリシロキサン (5.0cps/25℃)	3.5
(10) ミリスチン酸イソプロピル	2.5
(11) ソルビタンセスキオレート	0.5
(12) エチルバラベン	0.5
(13) ビタミンE	0.02
(14) 香料	0.5

実施例1に準じて製造し、アイシャドーを得た。本アイシャドーは実施例1と同様に密着性に優れたものであった。

特開昭61-210018(4)

・実施例4 類紅

(1) 二酸化チタン	10.0
(2) シリカ	10.0
(3) マイカ	51.28
(4) ナイロンパウダー	3.0
(5) 赤色228号	1.2
(6) 群青	2.5
(7) イソステアリルアルコール リンゴ酸ジエステル(2,000cps/25℃)	10.0
(8) トリメチロールプロパン トリイソステアレート(180cps/25℃)	10.0
(9) ソルビタントリオレート	1.0
(10) ビタミンE	0.02
(11) エチルパラベン	0.5
(12) 香料	0.5

実施例1に準じて製造し、類紅を得た。本類紅は実施例1と同様に密着感に優れたものであった。

出願人 株式会社 愛生堂